



# 千代田区障害者就労支援センター通信

## ちよだジョブコーチジャーナル

### 働くことを応援する

### No.64

## 「働く、羽ばたく、千代田」

～障害のあるなしにかかわらず、働く事が出来る開かれた地域を目指して～

令和5年度就労支援フォーラム開催

働く 羽ばたく 千代田

「働く、羽ばたく、千代田」令和5年度就労支援フォーラム開催の趣旨

日時 令和6年1月19日(金)  
13:30～17:00(受付13:00)

会場 千代田区役所4階 会議室A-B

申し込みフォーム(参加無料)  
<https://forms.gle/GW3RqM4iWk1a1K1C>  
締切の日 1月10日 定員: 会場30名、オンライン50名



令和5年度 就労支援フォーラム開催

働く 羽ばたく 千代田

「働く、羽ばたく、千代田」令和5年度就労支援フォーラム開催の趣旨

日時 令和6年1月19日(金)  
13:30～17:00(受付13:00)

会場 千代田区役所4階 会議室A-B

申し込みフォーム(参加無料)  
<https://forms.gle/GW3RqM4iWk1a1K1C>  
締切の日 1月10日 定員: 会場30名、オンライン50名

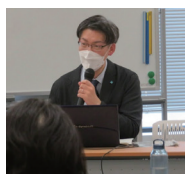
## 令和5年度 障害者就労支援フォーラム

令和6年1月19日、千代田区にて障害者就労支援フォーラムが開催されました。千代田区では「千代田区障害者就労地域連携ネットワーク連絡会」があり、地域の障害者就労支援に関する課題を話し合い、情報共有や連携を通して障害者雇用の未来について深く考え、議論する貴重な機会として年3回連絡会を開催しております。障害者の就労支援は、専門性とネットワークという二つの重要な柱に支えられています。専門性は、日々の経験から蓄積される知識とスキルを意味し、適切な支援の提供に不可欠です。一方、ネットワークは、情報の共有と新たな機会の創出を可能にします。

今回のフォーラムは、これらの資本をさらに発展させ、障害のある方が社会で活躍し、自立した生活を送るための新たな道を探求するための出発点として発案され、地域への発信として就労支援フォーラムが発案されました。

### ● 医療機関から見た障害者雇用の課題と連携について

第1回目のフォーラムは、近年の法制度を踏まえて、医療から障害者の就労への実践事例と地域での連携に焦点を当てて開催されました。

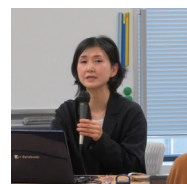


第1部では、精神科病院と発達障害専門病院での看護・管理経験を活かし、現在は公務部門での障害者雇用促進の企画立案に取り組んでいる、加藤 公一氏が、「障害者の社会参加と医療支援の可能性」と題し、地域の障害者の社会参加を促進するため、社会と職場で障害者が直面する問題の解決策や積極的な社会参加を支える環境整備の重要性を強調しました。障害者雇用の現場における課題への理解を深め、

障害のある方が社会の一員として活躍するための具体的な方向性について話されました。



次に、葛飾橋病院にて就労準備プログラムの運営・就労支援・定着支援に関わり、短時間雇用の取組みも行っている精神保健福祉士・訪問型職場適応援助者の澤 麻衣子氏、ピアサポーターの高津 真菜氏は、「対話と笑顔～障害者雇用の土台作りの大切さ～」と題して医療機関の視点から障害者就労支援の取り組みについて語り、医療機関としての支援体制と、障害者の長期的な雇用を支えることの重要性を話されました。また、医療機関が担う就労支援が障害のある方のリカバリーに及ぼす影響について、ピアサポーターである高津氏の経験を例に挙げて話されました。高津氏のお話からは、医療支援と就労支援の連携が、障害者のリハビリテーションと社会復帰に果たす重要性を明確に示しました。



最後に、牧田総合病院にて高次脳機能障害外来を開設し、作業療法士として評価や支援を行う傍ら、病院の障害者雇用担当を兼務されている、田中 由紀氏より「高次脳機能障害の復職支援」と題して、高次脳機能障害の復職支援には、医療機関、地域の専門家、患者自身の連携が不可欠であることを強調され、多職種間の連携が高次脳機能障害を持つ人々の復職支援において、いかに重要かをあきらかにしました。

これらの講演を通じて、障害者就労支援における医療と福祉の連携の重要性が強調されました。加藤氏、澤氏、高津氏、田中氏の講演は、障害者が自立した生活を送り、社会で活躍するための新たな

道を切り開くことを目指しています。専門家や関係者が一丸となって連携し、障害者支援の新たな展望を模索することの重要性は、これからの取り組みにおいても引き続き重視されるべき点です。障害者就労支援フォーラムは、このような新たな展望を探求し、実現に向けての一步を踏み出すための重要な場となりました。

### ●医療と福祉の連携の必要性

第2部のパネルディスカッションでは、医療機関と福祉施設が連携することで、障害者就労支援の効果が最大化されるという意見が共有されました。医療機関が障害者の状況やニーズを把握し、適切な支援を提供する一方で、福祉施設がその支援を補完し障害者が社会で自立した生活を送るための環境を整えることが重要であるとの見解が示されました。特に、ウェルビー秋葉原駅前センター施設長の塚本氏は、医療機関と密接な連携によって、障害のある方が適切にリハビリテーションプ

ログラムを受けることができ、社会復帰のサポートを受けることができる」と述べました。HOPE 神田施設長の山本氏とディーキャリア秋葉原の施設長の関氏も同様に、医療機関からの情報提供や連携の重要性を強調しました。パネルディスカッションでは、医療と福祉事業所の連携が障害者就労支援の鍵であることが再確認されました。医療機関と福祉機関が協力し、障害のある方が社会で活躍するための環境整備が求められます。特に、地域の関係機関が協力して取り組むことが重要であり、障害者雇用に対する真摯な取り組みは、社会全体の認識を変えるための重要なステップとなります。

医療と福祉の連携が障害者雇用において大変重要な要素であり、今後も関係者が協力して取り組んでいく必要があります。このフォーラムは新たな展望を探求し、障害のある方が社会で活躍するためのバリアを取り除くための一步となることが期待されます。  
(構成：秋元 全和)

## EVENT × NEWS

### 千代田区障害者就労地域連携ネットワーク連絡会とは

千代田区の就労支援事業所にて連絡会を年3回開催し、障害者の雇用促進を支援しています。各回では幹事事業所がテーマを設定し企画を行い、企業担当者と福祉担当者の交流の場も提供しています。令和5年度からは「働く、羽ばたく、千代田」をキャッチフレーズに、区内企業や関係機関とさらに連携を深め、地域に向けた情報発信を進めています。また、毎年区内の就労の社会資源を掲載したハンドブックを発行しております。



千代田区障害者就労支援ハンドブック及び季刊誌はこちらのQRコードよりダウンロードが可能です。



### 令和5年度 第4回地域交流会～障害のある方の「働く」を考える～障害者雇用における「心のバリアフリー」～

令和5年度第4回地域交流会「障害のある方の『働く』を考える」では、障害者雇用における「心のバリアフリー」に焦点を当て、ハローワーク飯田橋 専門援助第二部門 市川統括が障害者雇用の法的枠組みと合理的配慮の義務化について説明しました。障害者雇用トータルサポーターの田代氏は、障害者の職場環境適応と合理的配慮の重要性を強調しました。



第2部では、千代田区内の企業二社が障害者雇用に関する取り組みを紹介。ロクシタンジャポン株式会社の宮崎氏は、企業文化と障害者雇用への誠実な取り組みを語り、PwC Japanの桐野氏は、障害者雇用の合理的配慮と公正な扱いについて詳しく説明しました。各社の発表は、障害者雇用の現実的な課題と解決策に光を当て、職場での多様性と包摂の重要性を浮き彫りにしました。合理的配慮とは「頭で理解するだけでなく、触れ合い、共に作り上げるもの」という事が強調されました。

### 就労支援のお問い合わせ

電話：03-3264-2153 FAX：03-3556-1223

E-mail：chiyoda.syuroushien@city.chiyoda.lg.jp

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

発行：千代田区障害者就労支援センター 2024年度第64号（令和6年7月19日発行）

取材内容：第1回 千代田区障害者就労支援フォーラム「働く、羽ばたく、千代田」  
毎回、障害のある方の「働く」をテーマに発行しています。次号もご期待下さい。

